

風土記の丘の花だより⁹²

今、そしてこれから見られる植物(2021年6月26日)

梅雨がまた本格化するようですね。各地で被害が出ないことを祈るばかりです。この草花だよりですが、これまでに紹介した花がそろそろ300種になります。普段、気にもとめずに見過ごしている花って、たくさんあるものですね。あとどれだけ紹介できるかわかりませんが、まだまだ続けてまいりますので、ご愛読よろしくお祈りします。



今年もユウスゲが咲きました。柳川家住宅と大池の間の通路沿いです。ちょっと前に咲いていたトウカンゾウよりもやさしい黄色でレモン色に近い感じです。茎にたくさんの白いブツブツが付いていますが、それはアブラムシの一種です。ユウスゲに依存して、彼らも一生懸命に生きています。



小さな花ですが、マサキの花が咲いています。谷山家住宅の南の山裾に垣根として植えられています。マサキには赤い実ができますが、それは野鳥の大好物です。それで山の中でもあちらこちらに自生を見ることができます。通り過ぎるだけでは、ただの白くて小さな花ですが、立ち止まって、近づいて観察すると、花の作りがよくわかります。目立つ色彩の大きな花よりも魅力的に思えるかもしれませんね。



同じく谷山家住宅の東側の庭に1本だけ植えられているトウフジウツギの木にきれいな花が咲いています。あまりなじみのない木ですが、フジウツギ科の木です。本によるとゴマノハグサ科と書かれている場合もありますが、このさいどちらでもいいことにしましょう。(名札にはフジウツギとだけ書いています。)



万葉植物園などでヤブコウジの花がひっそりと咲き始めました。冬には赤い実がよく目立ちますが、梅雨時に咲く淡いピンク色の花も捨てがたい魅力があります。花はごく控えめに下を向いて咲くので、左の写真でも花の中は写っていません。わざわざ覗き込まなくても、これはこれで美しいですね。 松下